

団体道場紹介



こばと修童館

こばと修童館館長 中田 武太

明確ではありませんが、先代中田大作先生が、昭和四十七年頃在所の若者を集めて居合、剣道、銃剣道をこばと保育園の一室を借りて教えたのが始まりです。当時は二十人程の人々がいたと思いますが、そのうちたった二人だけ残ったのが指導者師範代の中森茂範さん、長田順一さんです。その後、こばと保育園卒園児を中心に小学一年生〜六年生を対象に道場を開きました。中田浩大、戸田樹の二人はこの道場の卒園児で今では道場を支える指導者であると共に、戸山流、英信流、槍術の達人でもあります。

週一回日曜日の午前中の稽古ですが、道場十訓の唱和から始まりま

- 一、私たちは手ではきものをそろえます
- 二、私たちは心をこめて礼をします

三、私たちは大きな声であいさつをします

四、私たちは時間を守ります

五、私たちは約束を守ります

六、私たちは人に迷惑をかけません

七、私たちはがまんすることを学びます

八、私たちは思いやりの心を持ちます

九、私たちは先生の教えを守り技をみがぎます

十、私たちは一日一歩向上します

私たちは武道を通して強くなります。

この道場十訓は精神訓話の材料として、出来るだけ分かりやすく、興味深く例など入れながら話をすることにしています。

開館以来約四十五年たちましたが、卒園児は一般の大人、道場卒業生合わせて三〇〇人以上を数えます。しかし近年入館希望者が減退して最盛期に比べて半減以下となり、こばと保育園卒園児だけの対象では成り立たなくなってきました。広く枠を超えて積極的に募集する事を優先課題としていきたいと思っています。

昨年青少年武徳祭では念願の団体最優秀賞を遂げることが出来ました。お蔭で世界武徳祭に招かれ多くの外国人が注目している中、子どもたちは、青少年武徳祭以上に緊張し真剣でしたと異口同音に話をしておりました。彼らにとっては最大の刺激となり、夢は大きく広がったことでしょう。これを機に更に道場を発展させたいと思っています。